

令和元年度 美馬市・つるぎ町障がい者自立支援協議会 こども部会
～ 発達障がい児支援のための関係者研修会 ～

【日 時】 令和元年12月19日（木） 13:00～15:00

【場 所】 美馬町市民サービスセンター 3階会議室

【参加機関】

保健：美馬市保険健康課、美馬市こどもすこやか課、つるぎ町保健センター、美馬保健所

医療：つるぎ町立半田病院

教育：美馬市教育委員会、貞光幼稚園、脇町小学校、三島小学校

福祉：発達障がい者総合支援センターアイリス、美馬市長寿・障がい福祉課、つるぎ町福祉課
半田保育所、池田学園、ピース、こまち、こども発達支援事業所イノセント

障害者支援センター小星園、障害者支援センターかしがおか、相談支援センターイノセント

計 4分野 19機関 31名

【研修内容】

1. 「障がい受容に向けてのアプローチ ～家族支援と支援者の役割～」

発達障がい者総合支援センターアイリス 次長 梅崎 一郎 氏

・こどもが発達障がいである、またはその疑いがある場合、受け止められない不安だけが残ることが多く、伝えるタイミングや伝え方には十分な配慮と家族との関りが重要である。家族が共に安心して安全に生活が送れるよう、子どもの生活状況をアセスメントし、障がいの有無に関わらず、全体で子どもをサポートしていく環境が必要。支援者は親が子どもと安心して関われるフレーム作りのサポートをしていくようスキルを学ぶことも必要。

・こどもが出来ることをフィードバックしていくと段々と家族との関係が築けてくる。親をどうサポートしていくかを含めて子どものサポートを考える。助言や情報提供をする場合には理解しやすいような伝え方の工夫が必要。気になっている事をどういうシチュエーションでどのように伝えるか。発達状況についての話は飲み込むまで時間がかかる。支援者は“届く伝え方”を意識しておく必要がある。

・最後に家族からの相談の中で受容や理解が難しい場合や検診の場面での関りなどについて質問があった。家族の気持ちに寄り添いながら目指す方向と一緒に、本人の特性に合った支援を家族と一緒に考えていくことが大切。アイリスでは相談件数が増加しているが、まずはその子どもが生活をしている地域の身近な機関(保育所や幼稚園、学校などの教育機関、相談支援事業所等)で相談やそれに対する支援など、サポート体制を構築していくことも重要なとの話があった。